

通し番号	選定理由				菌属・種	人や動物における感染症名	ハザードの特定における検討項目		
	1 家畜の細菌（有効菌種）	2 食品由来病原菌	3 治療対象の病原菌（フルオロキノロン）	4 指標細菌			【発生】 家畜に当該抗菌性物質を使用した場合に薬剤耐性菌を選択する可能性がある （薬剤耐性決定因子も考慮） ※評価対象抗菌性物質=OAであるが、NAの情報を含め総合的に判定	【ばく露】 家畜で選択された薬剤耐性菌が、食品を介して人に伝播する可能性がある （薬剤耐性決定因子も考慮）	【影響】 家畜で選択された薬剤耐性菌が食品を介してヒトに伝播し、当該薬剤耐性菌がヒトに対して健康上の危害因子となる可能性がある （薬剤耐性決定因子も考慮）
							A：国内の家畜等から検出される細菌で、評価対象抗菌性物質に対する耐性菌の出現が複数例報告されているもの B：国内の家畜等から検出される細菌で、評価対象抗菌性物質に対する耐性菌の出現報告が極めてまれにしかないもの C：上記以外の細菌（家畜等からの検出頻度が極めて低く、発生報告も極めてまれ） 該当なし：A～Cになじまない場合（例：そもそも調査されていない）	A：畜水産食品を介して人に伝播する病原菌で、その病原菌に起因する感染症が複数例報告されているもの B：畜水産食品を介して人に伝播する病原菌で、その病原菌に起因する感染症の報告がまれにしかない病原菌 C：上記以外の病原菌（食品を介して人に伝播すると考えられていない） 該当なし：A～Cになじまない場合（例：関連人用抗菌性物質を使用する感染症の対象が乳児で食肉を食さない）	A：国内において関連人用抗菌性物質が医療上重要（例：第一選択薬）となる人の感染症の起原因菌 B：国内において関連人用抗菌性物質が用いられる可能性のあるA以外（例：代替薬）となる人の感染症の起原因菌 C：上記以外の病原菌（国内で一般的に用いられていない） 該当なし：A～Cになじまない場合（例：海外では重要性が認識されている）
1			○		<i>Bacillus anthracis</i>	炭疽	C	B	B A
2		○	○		<i>Campylobacter jejuni, C. coli, C. fetus, C. lari and C. upsaliensis</i> 等	カンピロバクター感染症	A	A	A B
3			○		<i>Chlamydomphila (Chlamydia) psittaci</i>	オウム病	C	C	B
4		○			<i>Clostridium perfringens</i>	ウェルシュ菌感染症	該当なし B (NAも考慮するとB)	A	C
5			○	○	<i>Enterococcus spp.</i>	腸球菌感染症	C B (そもそもOA感受性低い)	B	C
6						大腸菌症	A (牛由来STECはNA耐性0~0.4% (2報)、他にNA耐性株の分離報告あり (1報)。豚由来STECはOA・NA耐性株の分離あり (1報)。EHECを含む大腸菌：Aとしてよいかな?)	A	A B
	○	○	○	○	<i>Escherichia coli</i>	下痢原性大腸菌症 腸管出血性大腸菌症		A	A B
7			○		<i>Francisella tularensis</i>	野兔病	C	C	B/C A (Bでも可)
8		○			<i>Listeria monocytogenes</i>	リステリアモノサイトゲネス感染症	該当なし B (Lm自体は家畜から数%分離、NA自然耐性の報告あり)	A	C
9	○				<i>Pasteurella multocida</i>	牛バスタツレラ性肺炎 バスタツレラ症	B (病鶏由来株でOA低感受性株の分離報告 (1報)、病豚由来株でNA耐性9%)	C	該当なし (海外では第二選択薬)
10	○	○	○		<i>Salmonella spp.</i>	サルモネラ感染症	A	A	A
11			○		<i>Salmonella enterica serovar Typhi, S. Paratyphi A</i>	腸チフス、パラチフス	C	C	A/B
12			○		<i>Shigella dysenteriae, S. flexneri, S. boydii, S. sonnei</i>	細菌性赤痢	C	C	A
13		○	○		<i>Staphylococcus aureus</i>	乳房炎、下痢（動物）等 ブドウ球菌食中毒等	B (病畜由来株でOA耐性株あり、NAは感性的の報告あり (1報))	A	A/B
14			○		<i>Vibrio cholerae</i> O1又はO139	コレラ	C	C	A
15		○	○		<i>Yersinia pseudotuberculosis, Y. enterocolitica</i>	エルシニア感染症	該当なし B (Y. enterocolitica について豚由来株でNA感性的の報告あり (1報)。国産市販豚肉からNA耐性株の分離報告あり (1報)。)	A	A
16			○		<i>Yersinia pestis</i>	ペスト	C	C	A

- = ハザードとして特定されるもの（影響やばく露がAとなった場合）
- = ハザードとして特定はしないが検討過程を記載（すべての項目がAまたはB）
- = ハザードとして特定はしないが検討過程を記載（国内で畜産食品を介した食中毒の起原因菌として報告されることが多い）
- = 要検討